

日本学術会議 公開シンポジウム

自然を活かして防災する ~つなげる取り組み~

開催日 2016年11月6日(日)

開催時間 13:00~16:20

会場 福井県国際交流会館

(福井県福井市宝永3丁目1-1)

入場
無料

生態系や生物多様性は、さまざまな自然の恵みや生態系サービスを、私たちの社会・経済にもたらしています。生態系がもたらす恵みの一つに、洪水・土砂崩れ・高潮などによる自然災害の抑制があり、「生態系を活用した防災減災」が近年注目されています。一方、数多くの自然災害を古くから経験してきた日本においても、進行する気候変動がさらなる自然災害を引き起こすと懸念されています。また、人口減少や財政問題などの社会的課題は、これからの防災減災のあり方にも影響します。本シンポジウムでは、生物多様性・自然災害・地域づくりなどに関する、さまざまな取り組みの相互連携を促進するために、最新動向の紹介や幅広い交流の場を提供します。

主催：日本学術会議 自然環境保全再生分科会

共催：福井県、「人口減少、気候変動下におけるグリーンインフラ - 生物多様性・防災・社会的価値評価」研究グループ、「ハビタットロスの過程に着目した生態系減災機能評価と包括的便益評価手法の開発」研究グループ

協力：SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク、環境ふくい推進協議会

プログラム：

開会挨拶

福井県、環境省

開催趣旨

鷲谷いづみ（自然環境保全再生分科会委員長、日本学術会議連携会員、中央大学理工学部 教授）

事例紹介

① 九頭竜川水系のグリーンインフラ的取組み

中村圭吾（国土交通省福井河川国道事務所 事務所長）

田中保土（日野川流域交流会 事務局長）

② 九州におけるEco-DRR事例

林博徳（九州大学大学院工学研究院 助教）

巖島怜（九州大学持続可能な社会のための決断科学センター 助教）

③ 田んぼを洪水調節に活かすー氾濫解析による水田の遊水機能評価ー

武藤裕則（徳島大学大学院理工学研究部 教授）

④ 三方五湖流域の自然を活かした防災減災に向けて

吉田丈人（自然環境保全再生分科会委員、日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

北川淳子（福井県里山里海湖研究所 主任研究員）

ポスターセッション

県内外の実践活動や研究活動の紹介

パネルディスカッション「自然を活かして防災する～つなげる取組み～」

コーディネーター：

一ノ瀬友博（自然環境保全再生分科会副委員長、日本学術会議連携会員、慶應義塾大学環境情報学部 教授）

パネリスト：

荒牧まりさ（環境省生物多様性地球戦略企画室 室長補佐）

萱場祐一（土木研究所自然共生研究センター センター長）

金納聡志（国土交通省総合政策局環境政策課 課長補佐）

田中保土（日野川流域交流会 事務局長）

林博徳（九州大学大学院工学研究院 助教）

武藤裕則（徳島大学大学院理工学研究部 教授）

吉田丈人（自然環境保全再生分科会委員、日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

閉会挨拶

鷲谷いづみ（自然環境保全再生分科会委員長、日本学術会議連携会員、中央大学理工学部 教授）